

園長だより「素直な子ども」③ 第31号

第31号は前号の続きです。今回も子ども達が本来持っている素直さを持続的に発揮できるようにするために保護者の皆さんが日々の生活においてどのようなことを意識して子育てをすればいいのかということについて触れていきたいと思います。

前号で挙げたのは次の2つでした。

- ① 言うことをコロコロ変えない
- ② ガミガミ言わない

今回は残りの3つです。

- ③ 子どもの話を聞く

子どもは手が離せない時や時間がない時に限って「ねえねえ、ママ」「パパ、あのね」と言ってきます。手が離せないで「後で聞いてあげるから」とついつい言ってしまいます。後で「何のお話だったの?」と聞いても「もう忘れた」「もうええねん」というようなことが今までありませんでしたか。子どもにとって大人の都合は関係ありません。今、その時にママやパパに伝えたい気持ちなのです。後のその時はもう伝えたい気持ちではないんです。少々面倒くさくても「ねえねえ、ママ。」

「あのね、パパ。」のその時に聞いてあげる努力をしてみてください。お子さんに話を聞いてもらいたいのなら、まずはお子さんのお話を聞いてあげることが大切です。

- ④ 自分と子どもは別の人間

当たり前のことですが、皆さんがそれぞれの価値観を持っているのと同じでお子さんにはお子さんの価値観があります。家族であっても、みんな別人です。自分の価値観をお子さんに押し付けてしまうとお子さんは反発しますし、皆さん自身もしんどくなります。自分と子どもは別ととらえることができるとお子さんが自分の思っていることと違うことを言ったり、行動したりしてもおおらかに見ることができるようになっていきます。

- ⑤ 子どもの失敗は生きる力を育む

お子さんに失敗させないように困難を取り除いたり、予防線をはったり、あるいは皆さんが敷いたレールの上にお子さんを乗せようとするのは良くありません。子どもの頃に色々な失敗を経験させることが大切です。ゆめ組・そら組の子ども達と一緒にボール遊びをしている時、私が子ども達に言っているのは「失敗しても大丈夫。いっぱい失敗した人がボールとお友だちになれるよ」ということです。失敗を恐れないでどんどんチャレンジする気持ちや失敗を取り返そうと頑張る気持ちを持たせることが「生きる力」を育みます。

素直という言葉は簡単に言えますが、大人になるまで素直で居続けるのはなかなか難しいものです。でも、子ども達が本来持っている素直さの芽を私たち大人が摘み取ってしまわないようにしたいものですね。